

21世紀学会誌

第2巻

1995年6月

巻頭言

記念講演

- くらしの中の研究 コープこうべ理事 湯浅 夏子 1
楽しみとしての研究 武庫川女子大学教授 高田 公理 9

共同研究

- 地域の振興と道路整備 代表者 福島 徹 21
電力傾斜を強める生活エネルギーと未来の家庭生活 代表者 新井 尚 31
公共事業計画の住民参加方式の基礎研究 代表者 新居 忠彦 42
地球にやさしい暮らしをしてみたら 代表者 庄司富美子 50

投稿論文

(自由課題)

- 地域シンボルの認知とその特性に関する一考案 大申 博行 65
生態系を生かしたまちづくりへのアプローチ 保久良正夫 72
淡路島の観光・リゾートの課題と展望 投石 文子 79

エッセーの欄

(家族について)

- 家族と女性の役割 福井 英子 87

声の欄

- 創造と挑戦 -目標1,000万歩- 浅野 悦二 91
但馬の祭典の交通対策に関して 大川 孝美 91
21世紀学会に若い人たちの参加を 塩野 勝 91
環境への取り組みについて 庄司富美子 92
21世紀学会に望む 千葉 俊壹 92
教室で感じたこと 堂本 高明 93
都市づくりのインタープリテーション 濱口 和則 93
21世紀学会で学んだこと 堀場 三慶 93
健康学習、体力づくり受講募集 森口 春夫 94

21世紀学会

巻頭言 — 学会運営に建設的なご意見を

渡 辺 泰 堂

阪神大震災から早や半年が経ちましたが、今なお多くの試練と困難の中にある会員の皆様方には心からお見舞い申し上げます。

さて、創刊号から1年たち、漸く第2号にたどり着きました。執筆者ならびに閲読と編集の実務を担当して下さった事務局の方々に深謝いたします。

本誌は共同研究を柱に自由題の投稿論文、エッセーと会員諸氏の「声の欄」等でまとめております。いづれも特に問題がない限り、内容に関する責任は筆者にあるものとしてそのまま掲載したいと考えておりますが、本会の目玉とする共同研究報告につきましては、執筆は初めてという方もおられることでしょうし、また将来その成果が内外で取上げられることを念頭において、論旨を損わぬよう手を加えさせていただきました。

学会の理念、あり方等に関して、会員の千葉俊壹氏から「声の欄」に投書をいただきました。ご趣旨、ご提案の内容はすべてご尤もなことです。会の理念、性格につきましては平成4年5月の創設趣意書並びに創刊号の巻頭言をご覧いただくことにして、氏のご提案について、筆者の考えるところを述べてみたいと思います。

本会の特徴は、会員の構成も研究領域もかなり広いスペクトル幅を持ち、自由に伸び伸びと活躍できるという点です。しかし、この長所は裏を返せば領域の分散化、内容の希薄化に繋がり、内外に発信し得るいい成果はなかなか出にくいのではないかと、といった負の側面も持ち合せています。従って、千葉氏のいわれるように、まず分野を整理しそれらの動向を見定め、それを学会活動に反映させていく必要があります。

同氏が提案される分科会方式はそのための理想的なものといえますが、その場合、分科会世話人制度の導入、年会の実施（シンポジウム等の企画、提案）、会誌の編集（記事企画、閲読）にあたって、幹事だけでなく皆様方のご協力が是非必要となります。いづれ組織が大きくなり、21世紀を先取りするテーマに行き着けば、「分科会」は必然のこととなるでしょう。共同研究がそれを補っているとして、今暫く現状のままで行きたいと考えています。「学会賞」のご提案には賛成です。早速、検討させていただきます。

本誌に対するご意見、さらには学会運営上の建設的意見をお待ちいたしております。